

## 復興を支えた伊吹山 — 砥都・伊吹のセメント産業 —

— こだまも楽し♪ 工場の響き♪ —

これは、米原市立伊吹小学校の校歌の一節です。昭和40年代後半頃、伊吹山麓で煌々とライトに照らされていたセメント工場を憶えている方もおられると思います。深夜もフル稼働していた工場。山から延々と続くベルトコンベア。現在も現役のコンベアが、伊吹山を背景に形成するシャープな産業景観は、伊吹地域の隆盛ぶりをいまに伝えています。

伊吹山での石灰産業のルーツは、寛文元年(1661)、石灰商売についての文書(小泉藤田家文書)に初めて見られます。良質な伊吹山の石灰は「真の石灰」と呼ばれ、貞享4年(1800)頃には、石灰を扱う会所が設立され、最初の黄金期を迎えます。文政6年(1823)には、大久保で山麓の広範囲にわたって石灰生産や採石がおこなわれていました。

石灰石はわれわれの生活に欠かせないものです。都市の基盤をつくるセメントやコンクリート、ガラスや薬品、紙、砂糖、ゴムなどの化学製品、お菓子、歯みがき粉のほか、環境浄化や消毒などにも用いられています。江戸時代の石灰産業がすたれ、地場産業がなかった旧伊吹村や春照村(昭和31年東浅井郡東草野村と合併して新伊吹村となる。のち伊吹町)は、第二次世界大戦後、いち早く地域の復興に動きまわります。伊吹山の石灰石は埋蔵量が多く、品位も良質で本邦石灰石鉱山の最上位にランクされていました。

さらに、原石山(鉱山)は東海道本線近江長岡駅に近く、鉄道輸送に便利なことなどから、大阪窯業セメントを積極的に誘致しました。昭和24年(1949)、新工場の建設が決まると、地元は献身的に協力し、セメントに必要な水は既設の用水路を、工事用の夜間照明には家庭用の電源を提供、約5万坪の土木工事には村人が積極的に加わり、「山村の希望」といわれたセメント工場は、3年の歳月をかけ完成。セメント専用側線に蒸気機関車が走り出しました。新幹線、高速道路、東京五輪、大阪万博などで需要は一気に加速。砂糖、肥料と並んで「三白景気」といわれる好況を謳歌しました。

ピーク時(昭和48年)には600人もの従業員がおり、うち半数は地元住民でした。関連会社を含めると、伊吹村の大半はセメント関連の従事者。買物をするには、長浜や大垣まで足をのばしていましたが、春照に商店街ができ、長浜から出張する店もあって、たいていの品は地元で間にあうようになりました。旧伊吹町では、会社が支払う固定資産税や事業税をもとにインフラ整備がおこなわれ、県下では大津市、瀬田町などとともに、国から地方交付税交付金を受けない数少ない富裕自治体だったのです。しかし、隆盛を極めたセメント産業ですが、1990年代国内需要が落ち込み、平成15年生産が中止されました。(高橋順之)



佐加太とは、「和名抄」東急本の坂田郡の訓を引用しました

第50号

2021年3月31日

滋賀県米原市教育委員会

## 須川山砦跡の発掘調査 — 信長に備えた城 —

国の史跡指定を目指して

米原市と関ヶ原町の県境にある野瀬山の山上に長比城跡(柏原・長久寺)と須川山砦跡(須川)のふたつの城跡があります。ふたつの城の国史跡指定を目指して、昨年度より検討を進め、今年度7月から8月にかけて、須川山砦跡の発掘調査を実施しました。

元亀元年(1570)4月、浅井長政は同盟を結んでいた織田信長を見限り、朝倉義景と結んで敦賀で信長を挟み撃ちにします。間一髪で危機を脱した信長は、岐阜で軍勢を整え、近江への進撃を開始します。織田信長の一代記『信長公記』の同年6月のくだりに「浅井備前越前衆を呼越し、たけくらべ・かりやす両所に要害を構え候」とあります。長政が越前衆(朝倉軍)の応援を受けて美濃との国境に菊安城(上平寺城/米原市弥高・上平寺)と長比城を築いて、鎌刃城主(番場)の堀秀村と樋口直房を守りに入れます。しかし、竹中半兵衛の調略で、両城は戦うことなく開城し、信長は「たけくらへに一両日御逗留」して、近江入国を果たします。

須川山砦は小規模ですが、高い土塁(防御のための土の壁)を巡らせて、コンパクトにまとめた発達した構造です。土塁で曲輪(建物があつた平坦地)全周を囲むのは、浅井氏領国に見られる特徴的な構造です。北側にある虎口(入口)は細い土塁を外に張り出して侵入した敵を囲い込む形となっており、その外にも土塁を設け、完全な遮断線としています。さらに補助の遮断線として、前面の斜面に三本の空堀群と二本の堅堀を設けています。

須川山砦と長比城は近接していて、中間の尾根鞍部は兵隊の駐屯地だったと考えられます。このような立地と、長比城と構造が類似していることから、信長侵攻に備えて築かれたひとつの城塞群として評価することができます。

発掘調査の成果

今回の調査は、建物の有無、お城の年代、そして土塁の構造を調べるためにおこないました。その結果、礎石や柱穴などの建物の痕跡は見つかりませんが、地盤がしっかりしていることから、直接地面の上に軽量の建物が建てられていた可能性も考えられます。

土塁の調査では、曲輪を削平した際に出た「石を多く含む土」と、斜面を敵が登れないよう崖状にした際に出た「石を含まない土」を交互に盛って築いていることがわかりました。また、お城の年代を特定する土器などの遺物は出土しませんでした。これは短期間の使用だったことと、須川山砦で戦うことなく廃城となったため、持ち出されたのではないかとみられます。

難なく国境を突破した信長は、6月28日、姉川を挟んで浅井・朝倉軍と戦います。はじめ浅井・朝倉軍が優勢でしたが、しだいに形勢が逆転し、浅井・朝倉軍は敗走します。このとき、浅井長政の重臣遠藤喜右衛門直経は、味方の首を高く掲げて織田軍を感奮せながら信長の陣地に近づき、信長と刺し違えようとしたのですが、直前で織田方の竹中久作(竹中半兵衛の弟)に発見され、討ち取られます。須川の集落内には、この遠藤氏の館跡や代々の墓地があります。今回の調査では、遠藤氏との関わりをうかがえる発見はありませんでした。

(石田雄士・高橋順之)



発掘調査の状況

### 情報BOX

◆米原市教育委員会では下記の報告書を刊行しました。

『柏原宿萬留帳調査報告書4』

近江国中山道柏原宿三〇〇年の蓄積

『重要文化的景観「東草野の文化的景観」整備活用計画書』

◆米原市教育委員会と志賀谷自治会協働で、滋賀県立大学市川秀之教授に依頼して、下記の報告書を刊行しました。

『米原市指定文化財調査報告 志賀神社華の頭』

◆米原市教育委員会では下記のパンフレットを作成しました。

「イヌワシー狗鷲」「伊吹山とヤマトタケル」

※文化財活用パンフレット vol.1・2

「東草野の竹刀製造用具および製品」「曲谷石工道具」

◆伊吹山文化資料館では下記の冊子・パンフレットを刊行しました。

『伊吹山文化資料館年報22 令和元年度の活動』

「東草野歴史物語」「伊吹山麓見どころマップ」

※「日本遺産 滋賀」観光まちづくり支援事業

◎問合せは、米原市歴史文化財保護課まで。

### ◆◆編集後記◆◆

ひっそりと50号をお届けします。しかも、編集子の怠慢でまたもや年度末になってしまいました。さらに、広く米原市内を網羅する本紙ですが、今回は伊吹地域に偏った感が否めません。これまた反省。コロナ禍のなかで、年度当初は閉館を余儀なくされていた市内の各資料館施設ですが、そんななかでも、開館後の集客の大きな助けとなったツールがあります。『御城印』は爆発的に増殖していて、全国で500種類ぐらい発行されているとか。米原市は、国史跡京極氏遺跡や鎌刃城をはじめ多くの城館遺跡がある自称「城のまち」です。東北や九州からお越しいただいています。さらに、「日本遺産カード」も追随しました(扇之舞)

米原市文化財ニュース

佐加太 第50号

発行 令和3年3月31日

編集 米原市教育委員会

〒521-0292 滋賀県米原市長岡1206

米原市教育部 歴史文化財保護課

TEL0749 (55) 4552

## 人々を迎え入れた「山の世界」 —甲津原区旧蔵の秀吉文書—

### 本能寺の変勃発！

NHK大河ドラマ『麒麟がくる』のクライマックスは、天正10年(1582)6月2日の本能寺の変です。天下統一を目前にした織田信長が明智光秀に討たれるという大事件は、全国的にも、歴史的にも大きな影響を与えました。

米原市甲津原は、岐阜県との県境にあり、琵琶湖に注ぐ姉川の源流の標高約520メートルの山村です。本能寺の変は、この山の中の小さな村にも衝撃を与えました。平成27年、本能寺の変直後に羽柴(豊臣)秀吉が出した古文書が見つかりました。この古文書は、昭和2年(1927)発行の『東浅井郡志』に甲津原区有文書として紹介され、村の宝として大切にされていたものが、いつの間にか村から姿を消してしまっていたものです。

古文書は、6月19日付けで、秀吉から西美濃(岐阜県西部)の武士・広瀬兵庫助にあてたもので、本能寺の変当時、秀吉の居城・長浜城を出て甲津原から西美濃へ、秀吉の母・なかと、妻・おねの逃避行を助けた兵庫助へ感謝をあらわし、領地を与えたものです。

本能寺の変当時、秀吉は、中国攻めの司令官として備中高松城(岡山県)攻略の最中でした。「信長斃れる！」の凶報は翌日には長浜城にも届き、おね、なかは明智方の攻撃から逃れるため、身を隠すことを計画します。この逃避行で、道中の警護を任せられたのが、古文書の宛名にある広瀬兵庫助です。

おねたち一行は、甲津原から新穂峠を越えて美濃国広瀬村(揖斐川町坂内広瀬)にある兵庫助の居館にかくまわれました。同じころ、明智方の京極高次、阿閉貞大らが長浜城を占拠します。間一髪で脱出劇でした。しかし、6月13日の山崎合戦で秀吉が光秀を破ったことで京極らは降伏します。おねたちは19日に無事帰城し、秀吉と再会しました。

この功績で、兵庫助は秀吉から、甲津原と高山(旧浅井町)・杉野(旧木之本町)の領地を与えられ

ます。三つの村は、県境をはさんで広瀬に隣接しており、滋賀県北東部から西美濃にかけて、広大な山の中の領地が形成されます。

古文書からは、北近江と西美濃の交流がわかるとともに、平野部からの視点とは違う、山の戦国時代を垣間見ることができる点でも重要で、甲津原はまさにその中心地でした。

### “入るを計らいて”

なかとおねは、美濃からの帰り道に甲津原で泊まり、村人が猿楽能で二人を癒しました(『東浅井郡志』)。このときの能面は、いまでも大切に甲津原で保管されています。

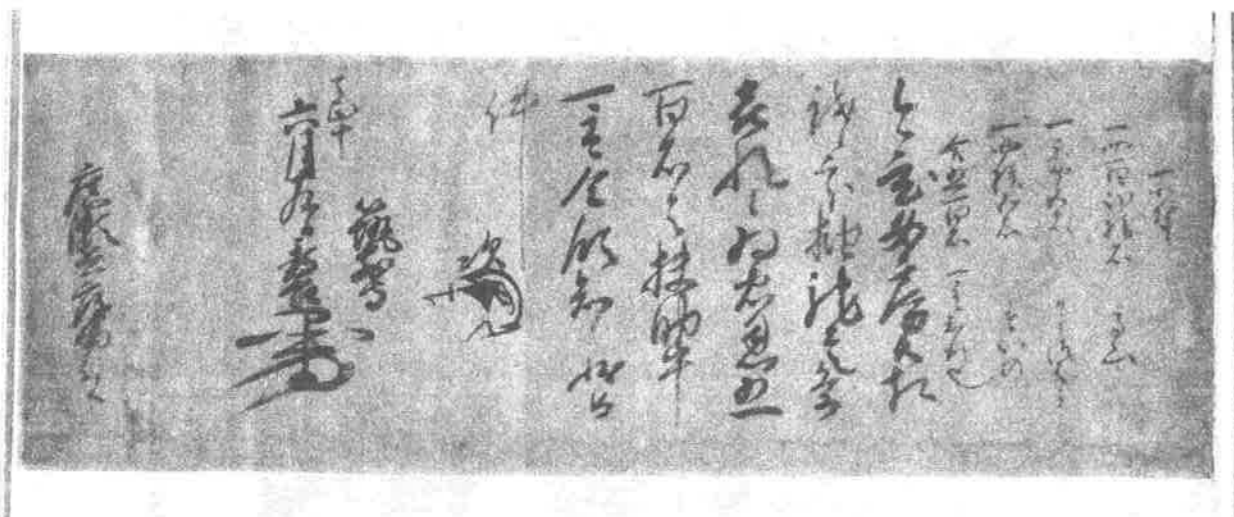
甲津原にはこんな言葉が伝えられています。“入るを計らいて、出ざるを制す”。「この心構えがないと、ここでは生きていけないのや」と長老は言います。来る人を拒まず、もてなすという精神。歴史上、甲津原は時の権力から逃れてきた人を温かく迎えました。平家の落人伝説を筆頭に、源平合戦に敗れた「源頼朝」や、石山合戦で信長に追われた「本願寺顕如・教如」。関ヶ原の合戦で戦線離脱した

「石田三成」。彼らは、甲津原を通る三本の峠道で行き来しました。まさに、時の権力の手が届かない「山の世界」なのです。

この気持ちはいまでも受け継がれ、交流事業や特産品の開発が盛んです。(高橋順之)



▲甲津原の能面(市指定)



▲「羽柴秀吉・秀勝連署宛行状 広瀬兵庫助宛 天正10年6月19日付、1巻」(個人蔵)

## イヌワシ幼鳥の剥製展示 —米原の豊かな自然のシンボル—

### 生物多様性の頂点

伊吹山の山頂から、はるかに望む白山や御嶽山を背景に空を舞うイヌワシ。翼を広げると二メートルにもなる大きな鳥です。この大きな羽は、飛ぶときにはほとんど動かすことなく、いったん風をつかまえたら、羽を広げたまま空を縫うように飛んでいく姿はとても勇壮です。

現在、伊吹山には一つがいのイヌワシが棲んでいます。その行動範囲(縄張り)は70~200平方キロといわれ、山手線の内側が約60平方キロで、世界でも屈指の人口密度のエリアも、イヌワシにしてみれば二羽だけのスペースというわけです。そのスケールの大きさを考えると驚くばかり。米原の空を見上げて、ここにイヌワシが飛んでいると思うと楽しいですね。

自然界の生態系のバランスはさまざまな生物が生息してはじめて保たれます(生物多様性)。イヌワシは、伊吹山における食物連鎖の頂点に立ち、生態系のバランスを保つのに重要な役割を果たしています。言いかえるとイヌワシが生息できる伊吹山の森林は豊かで生態系のバランスのとれた環境といえます。イヌワシは国民共有のかけがえのない生物であり、次世代に引き継いでいかなければならないすばらしい自然資産です。米原市にはイヌワシが舞う誇るべき自然があります。

今年3月、米原市を拠点に、国内のホッケーの最高峰・日本リーグに参戦する男子のクラブチーム「ブルースティック シガ」が誕生しました。そのエンブレムのモチーフはイヌワシです。イヌワシの強さ、気高さ。古来より人々の敬意と憧れの対象であったイヌワシが飛翔する様は、スティックを巧みに操りピッチを疾走する選手たちのイメージと重なります。まさに、イヌワシは米原市のシンボルなのです。

### 子育てがうまくいかない

イヌワシは、国の天然記念物であり、国内希少野生動物種(国内で絶滅のおそれのある種)、レッドデータブック絶滅危惧IB類(近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種)などに指定され、

法律上で保護されています。

現在、日本のイヌワシの推定生息数は、150~200ペアと単独個体を合わせた約500羽といわれています。かつて滋賀県内には10ペア程度が生息していましたが、鈴鹿の山々では、現在その生息が確認されていないようです。多くの生息地では、大規模開発、森林伐採、単一樹種による大規模な植林などにより、イヌワシの食べ物となるノウサギやヤマドリが減少し、環境汚染物質の影響などによって絶滅の危機に追い詰められています。

一昨年7月、伊吹山では十数年ぶりに巣立ったイヌワシの幼鳥がケガをしてうずくまっていたところを保護されましたが、残念ながら死にました。教育委員会では、米原市の豊かな自然を物語るシンボルであるこの幼鳥を、「米原市の宝」として剥製標本にし、米原市伊吹山文化資料館(春照77)で、永く保存、公開することにしました。米原の子どもたちには故郷の誇りとして、来訪者の方には、この雄大な自然を知り、親しんでいただきたいと思います。

(高橋順之)



▲米原市上空を飛ぶイヌワシ(草野昇氏撮影)



▲展示されている剥製